

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める—

書くこと部 研究主題

書くことのよさを実感できる単元づくりを目指して

第1学年国語科学習指導案

単元名 わくわく ものがたりを かこう

～絵から想像したことを、対話も生かして物語に書く～

学習材名 「どんなおはなしができるかな」(光村図書 1年下)

日 時：令和7年2月21日(金)5校時

児 童：大田区立洗足池小学校 第1学年3組 25名

担 任：大田区立洗足池小学校 教諭 長谷部裕子

指導者：江東区立第六砂町小学校 指導教諭 藤村由紀子

1 単元の目標

- 句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。〔知識及び技能〕(1)ウ
- ◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、進んで物語を書き、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ	①「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。 B(1)オ	① 「わくわくものがたり」を書くために、すすんで場面の様子を想像したり、学習課題に沿って感じたことや考えたことを文章にまとめたりしようとしている。 ② 「わくわくものがたり」を書くことを通して、相手の文章に積極的に感想を伝えたり、今までの学習を生かして自分の書いた文章のよさを見付けたりして、学びを振り返ろうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

本学級の児童は、入門期からの半年で文字や記号の表記、助詞や事物を表す言葉の使い方を学習し、それらを生かして自分に関する身近な出来事や経験したことについて文で書き表しながら理解したり、学校生活など実際の場面で使ったりして習得してきた。めあての達成を目指して活動を進める様子や、他児童と関わって解決する姿、気付きや考えを伝え合う交流などから、自己の課題解決や全体の目標達成を図る学習活動への意欲や関心が高い児童が多いと捉えている。

「書くこと」においては、言葉や書き方の知識・技能を中心に学んできた。さらに言語感覚を豊かにするために、学習や行事や季節に関する言葉について、体験と言葉を結び付けて取り上げ、掲示や学習カードにして日々の学習や学校生活で活用している。句点や助詞など、表記に関する事項については、いつでも見ることができるように掲示している。また、平仮名と片仮名の学習を終えてからは、学習感想や1行日記を開始し、短時間で出来事を振り返って書くということに取り組んできた。ほとんどの児童が既習の3文程度の文章を書くことや、「わけを書きましょう。」「思ったことを書きましょう。」など、必要事項を限定した文章を書くことはできる。しかし、かぎや句点を書き忘れたり、表記に誤りがあったりする。こうした書くことの実態から、題材に沿って想起したことを書き言葉で表現する文章化の過程や書いたものを振り返って、そのよさを感じたり、楽しさを味わったりするまでには至っていないと考える。

(2) 学習材について（学習材観）

本単元では、児童の課題解決や学びを促す柱として、以下の2点に注目した。

1：他児童と交流しながら文章を書くこと。

2：書いたものを読み合っよさを伝え合うことで、自分の書いた文章のよさを見付けること。

これらに基づき、児童の学びに適した学習材について検討した。主な学習材は、教科書の挿絵、教師の作成したモデル、学習シートである。

「どんなおはなしができるかな（光村図書1年下）」の学習材は、児童が挿絵の動物たちの様子から、「この後は、どうなるのかな。」と想像を広げて、自分だけの物語を書くゴールが設定されている。書き進める過程で、他児童との対話を通して物語の設定や場面の様子を想像し、情報を集めて4～5文程度で簡単な物語を書く単元構成である。題材に沿って想起したことを書き言葉で表現する文章化の過程や書いた文章や作品を振り返って、そのよさを感じたり、楽しさを味わったりする経験を積むのに適した学習材と考えた。

本分科会では、児童が様々な物語の世界を想像しながら書き進めることができるように、ペア児童と対話しながら物語の内容を広げる活動を取り入れた。教科書挿絵の登場人物達は、何かを持っていたり、会話をしているようだったり、どこかへ出かけていきそうだったりする。書き手である児童は、「何を話しているのかな。」「どこへ行くのだろうか。」「この後、何が起こるかな。」など、絵の世界に入り込んで想像を広げる。それをさらに促すために、ペア児童との動作化やペープサートでの劇化を伴った交流を設定した。書き手は、イメージしている物語の設定や登場人物の行動を、聞き手である他児童と交流して楽しんだり、質問されて答えたりしながら、想像を広げていく。書き手児童は、自分のイメージを発話やメモによって言葉で明確にしていくことができる。ほかに、友達が褒めてくれた、一緒に考えてくれたという、充実感や有用感も期待できる。

また、想像した物語を、どう文章に表したらよいかを具体的に考えさせる主な手だてとして、児童の思考を促すモデルや学習シートや資料の提示を提案する。モデル文は、児童が考えを多様に広げられるように、教科書の挿絵に登場しない動物のイラストとそれを基に書いた物語を提示する。楽しく想像したり、考えを想起させたりするために、ペープサートや動作化で登場人物を実際に動かしながら書き進めていく。そのほか、各自に応じた学習活動が展開できるように、学びを自覚し振り返るための〈学習計画・振り返り表〉、児童が自分に適したものを選ぶ複数種類の〈学習シート〉、人物の性格や心情を表す言葉を集めた〈ことばのたからばこ〉などを活用する。これらの学習材を適宜用いることで、書くことへの苦手意識を軽減し、楽しさや有用感を味わわせることができると考える。

(3) 単元について（単元観）

本単元は、体験を通して学ぶことの多い第1学年の時期において、言葉を用いて自分の思考を表したり、確かめたりする学習の一端であると捉えている。そこで、絵や他児童との対話といった材料を基に書いた文章のよさを見つめ直し、思った通りに書けたという実感を持った楽しさや、読書会や読み聞かせなどで相手の反応や感想を直接受ける充実感などを味わうことのできる学習活動を目指した。物語の設定を説明したり、会話文を考えながらやりとりをしたりするペア児童との対話が、書くことの情報収集となるだけでなく、わくわく

とした気持ちに共感してくれる協働的な書き手としての役割もあると考える。これにより、自己の思考をどう表現するか模索する手だてになりうることを期待する。こうした言語活動の積み重ねが、言葉によるものの見方や考え方を自覚的に捉えられるようになっていく基盤となるであろうと考える。

さらに、児童の生活とつながりがあり、書くことのよさを実感できる単元となるよう、相手や目的を次の通りに設定した。

相手：自分の保護者

目的：親子読書の一環として、自分で書いた物語を家族と一緒に読む。

自分の書いた物語が、絵本となって様々な人に読まれ、感想をもらえるという経験から、「また書いてみたい。」「もっと書けるようになりたいな。」というように、次の書くことへと繋がっていくような展開を目指している。積み重ねてきた学びを生かした本単元での書くことの共有から、手応えや有用感を得てほしい。そのために、単元前の活動－〇次の取り組み－として、絵本の読み聞かせや関連図書の展示、読書時間の確保など、児童が単元と出会った時に自然と向き合えるように環境を整えた。掲示物も〈読み返しポイント〉やくことばのたからばこなど、学習内容に沿ったものを選び、自分たちの通ってきた学びの道のりで言葉の世界が広がってきたことを実感できるようにした。

以上のような手だてを講じることで、児童の「家族に楽しんでもらいたい。」「そのために「登場人物がどんなことをするとわくわくするだろうか。」、あるいは「スラスラと読み聞かせられるように文章を正しく書きたい。」などのような、言葉を通じた思考の広がりや表現に対する意欲の高まりが見られるであろうと予想する。

4 書くこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

書くこと部では、「書くこと」の学習における「言葉による見方・考え方を働かせること」を、単元における言語活動を通して、課題を解決する際に育む言葉への自覚であると捉えた。

その上で、書くことにおける「言葉による見方」とは、知識・技能的な側面から、書きたいことを表現するために、語彙や文・文章、段落、文章全体に着目することと定義した。また、「言葉による考え方」とは、情報の扱い方の面から、情報を整理する際の概念としての考え方（比較・類推・因果・分類／分解・抽象化・具体化・系統化・一般化）であると捉えた。さらに、思考・判断・表現的な側面から、書きたいことを見付けたり、書く対象を見つめ、表現したりすることとして、発想や着想を得ること、さらにそこから構想や連想を練ることであると定義した。

書く活動においては、この「言葉による見方」と「言葉による考え方」とを行き来しながら、単元の目標を達成することを目指している。この行き来には、①選択②運用③検討④想像の4つの場面が想定される。「選択」とは、どのような言葉を使うかを児童自身が吟味し、選ぶこと、「運用」とは、その言葉のもつ意味を確かめ、実際に使ってみること、「検討」とは、文脈において適切か考えたり、どのような意図でその言葉を使ったのかを推し図ったりすること、「想像」とは、その言葉を使ったときに読み手がどのような印象をもつかを考えること、である。

これらを複合的に体験することで、豊かな言語感覚を育成することが可能となると考える。豊かな言語感覚とは、言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・美醜・ニュアンスなどについての感覚のことである。

以上を踏まえ、獲得した言葉の力を単元内に留めることなく、教科横断的な視座で活用したり、自らの生活に活用したりする場をもったりすることで、豊かな言語生活を実現することにつながるかと考えた。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が（本単元において）身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

①目的が明確で、楽しさを感じながら書くことができる活動を取り入れた学習展開

まず、児童が、自分で書いた文章の内容や表現のよいところを見付けることができるように、観点を意識させる。具体的には、学習計画の段階から気を付けたい書き言葉や文字表記を〈読み返しポイント〉として取り上げて、一覧表にして掲示したり、書くことの過程の様々な段階で確かめたりする。

また、物語の感想を交流する中で、文章から受けた印象やおもしろさを感じた部分を言葉にして相手へ伝えるという思考の言語化は、自分の考えを明確にするばかりでなく、感性や情緒を磨いていくことにもつながると考える。

さらに、児童は、目的が明確で必然性があれば、意欲をもって取り組むことができる。そこで、単元の終

末に、自分の文章が実際に読まれる実の場として、書いた物語を絵本に仕上げ、学年の友達と読み合うミニ読書会を開き、最終的には家族へ読み聞かせをするというゴールを設定した。

② 児童自ら「できるようになりたいこと」を考え、活動を振り返り、自己評価を促す

単元のゴールにたどり着くためには、何をどのようにできるようにすればよいか、そして実際にどれだけできるようになったのかを認識できるように、めあてと振り返りによる自己評価を促す。

具体的な例として、〈モデル作品〉や〈モデル文〉のほか、構成表や交流の仕方などのモデルも単元の目標や意識させたい指導事項に基づいて教師が作成し、学習活動に沿って提示する。学習シートの使い方や交流の手順・観点をモデルとして具体的に示すことで、児童が何をどのようにすればよいか分かり、自ら自分の目標を設定したり、自己評価の視点としたりすることができるようになると思う。

(2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。

（確かにする、広げる、高める、深める、などを含む）

交流が、学びを深める手だてとなるように児童と確認しながら、設定していく。本単元では、以下の3項目に注目した。

① 目的

本単元におけるペア交流の目的は、登場人物の動作化や挿絵について一緒に想像を広げたり、読み合いで親身に助言や指摘や感想を与えてくれたりする、いわばパートナーとの協働的活動にある。

登場人物になり切って、相手役のペア児童と対話をする。対話の進め方や質問の言葉など、対話をつなぐ方法もモデルや動画を活用して考えさせ、提示する。対話を通して、物語世界の想像をふくらませたり、書いたものを客観的視点から、しかし親身な立場で読んだり、気付いたことを伝えたりしてくれるパートナーとして、共に学びを深めることを期待する。

② 観点

本時の交流では、A) を必ず、できたらB)・C)・D) の4観点についての考えを伝える。

A) 「わくわく」ポイント、そのわけは何か（物語の内容や表現のよさはどこか。）

B) めあてができていたか（書き手児童が自分で設定した学習課題ができていたか。）

C) 質問（なぜかな、もっと知りたいな）

D) 読み返しポイント（言葉や文字表記）

それぞれの考えをどのように交流するかの手順や道具をどう用いるかを確かめる交流モデルの提示方法として、本単元では①板書や掲示物と②T2に相手役を依頼のダブル方式で示す。

③ 人数、質、席配置

本時では、これまで固定で交流してきたパートナーのペアではなく、本単元においては初めて組む児童とのペア交流を設定している。これまで親身な立場から共に書き進めてきたペア児童とは異なる、新たな視点での感想が得られることを期待する。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

① 身に付けさせたい言葉の学びを意識できる教師の意図的な指導と支援（指示・発問、学習材・掲示物）

この単元では、これまで児童が習得してきた学びを生かして、4～5文の物語を書くことを目指している。特に、入門期を過ぎた1年生児童には、書き言葉や文字表記のきまりを意識する大切さを実感させたい。例えば、かぎ（「」）の使い方を理解する第1歩として会話文を使用した文章を書いていく。本単元では、登場人物が発した「セリフ」を中心とした物語を書くことで、会話文を用いる必然性をもたせた。ほかには、「はじめ—中—おわり」の簡単な文章構成を用いることや書き上げた文章は読み返して確かめることなど、今後、文章を書く上で基本となる事項に複数ふれることのできる単元となっている。

こうした、単元目標以外の事項をも意識できるように教師は意図的に指示・発問や学習材・掲示物を用いた指導と支援を行う。具体的には、学びを自覚し振り返ることができる学習計画・振り返り表、児童が自分で選べる複数種類の学習シート、〈ことばのたからばこ〉掲示、表記文字の補助資料、対話のヒントになる話型の掲示である。（9 資料ページ参照）

共有や振り返りを通して、「サルさんとキツネさんが、二人で冒険する物語が書けてよかったな。」「友達やおうちの人が楽しんでくれる物語を、また書きたいな。」「体育の時に友達が言ったことがよかったから、日記に書いておこう。」などのように、児童自らが文章を書くよさや楽しさを見いだせるような経験をさせたい。

②習得した力を発揮することができる実の場の設定

書いた文を読んでもらい、反応を得ることは児童にとって高いモチベーションとなる。自分で書いた文章をいろいろな人（例 学級の友達、他学年の友達、来年の1年生、保護者、先生など）に読んでもらえるよう工夫し、「書いてよかったな。こんなに書けるようになったんだな。」という達成感が次の学習につながるようにする。

6 単元計画（全5時間）

過程 (次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
○次		<ul style="list-style-type: none"> ◇「ことばのたからばこ」言葉の習得や語彙を増やすことを目的とする。学習や行事、季節などに合わせた語句集めを行い、適宜活用する。 ◇「1言日記」「学習感想」書くことに慣れるために、日常生活の中での書く場面を増やす。 ◇「学級文庫の充実」学習や行事に関連した書籍を展示し、児童が読み物に触れる機会を増す。 ◇「読み聞かせ」内容や挿絵から想像を広げたり、物語を純粹に楽しんだりできる機会を増す。 ◇「読書時間の充実」朝学習や昼時間での、個人やペアによる読書を奨励する。 ◇「ペア読書」他の児童と選書から一緒に行い、感想などを伝え合いながら読書を楽しむ。 		
第一次 題材の設定と計画	1	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学しゅうの、けいかくをたてよう。</p> <p>1 「おうちの人によみきかせをしよう」という単元ゴールを決め、活動への見通しをもつ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">ゴール 「わくわくものがたりをつくろう」 おうちの人によみきかせをする。</p> <p>2 教師が作成した文例を読み、物語を書くときのポイントを話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <input type="checkbox"/> どのな ものがたりに するか かんがえられる (物語の設定に関するめあて) <input type="checkbox"/> 1 どうじょうじんぶつについて かんがえられる (登場人物) <input type="checkbox"/> 2 なにを するか かんがえられる (行動の内容) <input type="checkbox"/> 3 どのな かいわを するか かんがえられる (会話の内容) </p> <p>3 教師の読み聞かせを聞いたり、ペープサート劇を見たりして、物語を書く上での学習課題や流れを話し合い、学習計画を立てる。</p> <p>4 自分の学習課題を選ぶ。</p> <p>5 物語を書くときのペアを確認する。</p>	<p>○本単元に関連する既習内容を想起しやすいように、読み聞かせの本や学習の成果物などを見せながら振り返らせる。</p> <p>○主体的に課題解決に取り組めるように、既習の書くこと単元やこれまでに書いた成果物を具体的に提示しながら考えさせる。</p>	<p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 観察・発言・記述 「わくわくものがたり」を書くために、進んで場面の様子を想像したり、学習課題に沿って感じたことや考えたことを文章にまとめたりしようとしているかの確認。</p>

第二次 情報の 収集・ 内容の 検討・ 構成の 検討・ 記述・ 推敲	2	どんなのものがたりか、ペアとはなしあってかんがえよう。	第1時に同じ
		1 絵や文例を参考にしながら、自分の物語に出てくる登場人物を決める。 2 ペア児童と対話しながら、登場人物（動物）になったつもりで、話をする。話しながら、書きたい情報を集めていく。 ● 何をしているか ● どんな話をしているか など 3 おはなしシートに、思いついたことや話したことなどをメモする。	○想像を広げられるように、イラストに描かれていない場所や動物を1つ程度であれば追加してもよいことを伝える。イラストからかけ離れた設定や既存のキャラクターは用いないことを伝える。 ○人物像や持っている道具なども、対話を広げてつなぐ視点として有効そうであれば提示する。 ○話のつなげ方とメモの仕方は、教師が対話モデルを演じて具体的に示す。 ○対話に時間を使えるように、メモは短い言葉や文で書かせる。
	3	わくわくものがたりをかこう。	[知識・技能①] <u>観察・発言・記述</u> 句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っているかの確認。
		1 ペア児童と話したことを基にして、物語の内容を考えて、組み立てメモを作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> はじめ…誰が、何をしていたか。 中…会話文の入った内容 ○A、A→B（会話文一つまたは、つながりのある会話文二つ） ◎A→B→A（つながりのある会話文三つが書けている。） 終わり…最後、登場人物達がどうなったか。 </div> 2 組み立てメモを、ペア児童と一緒に見て、内容や展開を確認する。 3 記述用紙に書き始める。	○ペア児童と話したことを基に内容を考えるよう助言したり、おはなしシートを見るよう促したりする。 ○会話文はかぎを使って書くことや、誤字脱字はないか、句読点の打ち方は適切かを確認する。
4	おはなしをかんせいさせ、ペアとよみあおう。	[主体的に学習に取り組む態度②] <u>観察・発言・記述</u> 「わくわくものがたり」を書くことを通して、相	
	1 物語を記述用紙に書いて、完成させる。	○教師のモデル文例は、見本となるものと誤りや不足のあるものを用意して比	

		<p>2 書いた文章を読み返す。</p> <p>3 ペア児童と読み合う。 ●物語内容のおもしろさ ●書きぶりのよさ</p>	<p>較し、記述で気を付けたい事柄について考えさせる。</p> <p>○読み合いでの感想が、共有へ繋がるように、観点を確認してから交流させる。</p>	<p>手の文章に積極的に感想を伝えたり、今までの学習を生かして自分の書いた文章のよさを見付けたりして、学びを振り返ろうとしているかの確認。</p>
第三次共有	5本時	<p>ペアどくしょかいをして、ものがたりのすてきなところを見つけよう。</p> <p>1 書いた文章を読み合い、よいところをペアで伝え合う。 ●物語の内容のおもしろさ ●書きぶりのよさ</p> <p>2 言ってもらってうれしかった感想を振り返る。</p> <p>3 本単元の学びを振り返る。</p>	<p>◆相手児童が書いた物語の、「いいね。」「おもしろいな。」を詳しく言葉で相手へ伝えられるように、観点を示す。</p> <p>◆単元での学びや今後への期待を自覚できるように、「書けるようになった。」ことや、書いてよかったことについて振り返らせる。</p>	<p>〔思考・判断・表現①〕 観察・発言・記述 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができているかの確認。</p>
実の場		<p>◆学級内で、作品を読み合う。読み聞かせ会を開き、いろいろな人と感想を伝え合う。</p> <p>◆掲示して、他学級児童の書いた作品も含め、たくさん読めるようにする。</p> <p>◆家で読み聞かせをし、保護者から感想をもらう。</p> <p>◆単元終了後も、書くことや伝え合うこと、本を読むことなどを楽しんでいく。 「ことばのたからばこ」「じぶんタイム・ともだちタイム」「1行日記」「学習感想」「読み聞かせ」</p>		

7 本時の学習（5 / 5）

(1) 本時のねらい

「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてと進め方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時に解決したい課題が何かを自覚できるように、前時の学習感想を取り上げて価値付けや課題点の確認をする。 	
ペアどくしょかいをして、ものがたりのわくわくするところを見つけよう。		
2 交流の視点方法をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> A 作品を見せながら、物語を音読する。 </div> <div style="font-size: 2em; color: blue; margin: 0 10px;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> B 作品を見ながら、物語を聞く。 ➡わくわくしたところにシールを貼る。 ➡わけを伝える。 ➡交代する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の目的と方法を具体的にイメージできるように、教師によるロールプレイで見通しをもたせる。 	
3 ペア児童と読み合い感想を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の頑張ったところをめあてで伝えて、できているか見てもらおう。 ・さるさんがプレゼントをあげるところが、優しくてすてきだなと思ったから、伝えよう。 ・どうしてギターを持って出かけることにしたのか知りたいな。質問してみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手児童が書いた物語の、「いいね。」「おもしろいな。」を具体的に言葉で相手へ伝えられるように、観点を示す。 ・「いいな」「おもしろいな」と思ったところ、どうしてそう思ったのかを伝え、ペア児童の考えに共感したり、質問したりしながら交流するよう促す。 ・時間を見て、自由に相手を見付け、交流させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 <u>観察・発言・記述</u> 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができているかの確認。</p> </div>
4 全体で、学びを共有する。 読み合いの中で見付けたこと <ul style="list-style-type: none"> ・初めに決めためあてができていたよ。 ・〇〇さんのお話がおもしろかった。 ・いいねと言われてうれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてに対応した学びが意識できるように、発表児童が見付けた「文章のよさ」を具体的に引き出し、価値付けながら全体へ共有する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や自分の文章の内容や表現で「いいな」と思うところを見付けることができている。 ・また、そのことを言葉で相手に伝えることができている。 </div>
5 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元での学びや今後への期待を自覚できるように、「書けるようになった。」ことや、書いてよかったことについて振り返らせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの自覚」を、振り返りに書くことができている。 </div>

8 資料

●学習計画表

わくわく どくしょかい	よみかえし	わくわく かく	わくわく かいわ	けいかく	めあて
／ () ()	／ () ()	／ () ()	／ () ()	／ () ()	日にち
5	4	3	2	1	
ペア () ペアどくしょかいをして、ものがたりの 「わくわく」などところを みつける。 さん)	かいた ものがたりを、ペアとよみあう。	じぶんの わくわくものがたりを かく。	どんな ものがたりにしたいか、ペアと はなして かんがえる。	学しゅうの けいかくを たてる。 ペア () さん)	きょうのめあて
					ふりかえり ◎ ○ △

わくわくものがたりを かく ① ばん なまえ]

学しゅうけいかく・ふりかえりひょう

◆じぶんのめあて：一つえらぼう

- 1 どうじょうじんぶつについてかんがえられる。
- 2 なにをするかかんがえられる。
- 3 どんなかいわをするかかんがえられる。

●できるようになったこと

●これからがんばりたいこと

●モデル文



わくわくものがたりを かく ばん なまえ]

だいいい

ボールあそびをしよう

いぬがボールをもっているねこに、あいました。のほら
で、ひるねをしているねこに、あいました。
いぬが、

「ねこさん、いっしょにあそぼうよ。」
とさそいました。ねこは、
「ふわあ、まだねむいよお。」
とこたえました。

「ボールあそびをしたら、めがさめるよ。」
いぬがいました。

いぬとねこは、たのしくキャッチボールを
しました。